開導聖人を支えたご信者物語 第9回

200th Anniversary
佛立開導日扇聖人ご生誕200年慶讃

明治四年（一八七一）、開導聖人は、ご弘通発展のためにと、ご信者の竹内粂吉さんの娘・栄さんとご結婚されるんだ。このとき開導聖人が五十五歳、お栄さんは二十六歳だったんだ。今回は開導聖人とお栄さんのご結婚のようすについてお話するね。

お栄さん ①

明治三年（一八七〇）頃の佛立講は、入信するご信者が増え開導聖人は、毎日御講などのご奉公で外出されることが多くなっていたんだよ。また、お寺（宥清寺）に住み込んで修行する若いお弟子も増えていたんだ。

そこで、留守の多い開導聖人に代わってお寺にやって来るお客さんやご信者方の対応。そして、開導聖人や若いお弟子方の炊事、洗濯、身の周りのお世話などをしてくれる女性が、どうしても必要となってきたんだね。

お寺の幹部（団体の中心となる者）のご信者方が集まり相談したところ、開導聖人にご結婚をお勧めすることとなったんだ。その候補（あることを選ぶ対象としてあげられた人や物）にあがったのがお栄さんだったんだね。

明治12年頃の開導聖人　御年63歳

一日一万遍の御題目口唱は決して欠かさず、そして宥清寺内の家事一切を取り仕切られたお栄さん

でも当時は、まだ、僧侶の妻帯（奥さんを持つこと）はいけないという風習（長年にわたって伝えられてきた習わし。しきたり）があったんだよ。

開導聖人もはじめは僧侶の妻帯には反対されていたんだけれど、江戸時代から明治の開かれた時代になってからは、「御題目が弘まるために役立つことだから」と、僧侶の結婚に賛成されるようになっていたんだね。

お栄さん自身も「一日一万遍の御題目口唱に励むこと。そして、苦労があっても決して負けずご奉公にあたること」をお誓いされ、開導聖人のお側でご奉公させていただきたいとお願いされたんだよ。

開導聖人は、周りのご信者方のお勧めやお栄さんの強いご奉公への思いを知り、お栄さんとの結婚を決意（自分の意志をはっきりと決めること）されたんだ。

だけど、この開導聖人の結婚に宗門側（本門法華宗）は、はげしく非難（人の欠点やあやまちなどを取り上げて責める）してきたんだ。そして、お栄さんに対して様々な邪魔（さまたげること）や嫌がらせをするようになったんだよ。それでも、お栄さんは、決してくじけたり負けることなく、開導聖人や若いお弟子方のお世話やご奉公に励まれたんだね。

開導聖人がご結婚された翌年の明治五年（一八七二）四月。なんと驚くことに太政官（今の政府のようなもの）が「僧侶が肉を食べること。奥さんを持つこと。髪を生やすことなど」を、自由にしてよいとの布告（法律などを政府が国民に知らせること）があったんだよ。

この発表によって、お栄さんは、正々堂々（ごまかしや秘密などなく）と開導聖人の奥さんとして、お寺でご奉公することが出来るようになったんだね。

お栄さんがご結婚されて入られた宥清寺（明治中頃の写真）

明治12年頃の開導聖人の奥さん・お栄さん　御年34歳